

会議要録

会議の名称	令和元年度 第1回和光市史編さん委員会
日 時	令和元年7月23日（火） 10:00～11:55
場 所	和光市役所 4階 404会議室
出席者 ※敬称略	【和光市史編さん委員会委員】 学識経験を有する者（要綱第3条第1項第1号委員） 宮瀧交二、鈴木敏弘、小柳一彦 和光市自治会連合会の推薦を受けた者（第2号委員） 伊藤芳夫 和光市商工会の推薦を受けた者（第3号委員） 富岡健治 公募による市民（第4号委員） 佐々木好評、牧田忍 教育部長及び企画部長（第3条第1項本文） 結城浩一郎、橋本久 【事務局】 〔和光市教育委員会〕 教育長 戸部恵一 〔生涯学習課 和光市史編さんプロジェクト・チーム〕 【チームリーダー】 茂呂あかね 【チームサブリーダー】 鈴木一郎 【チームメンバー】 石田清、糸野友也、安井翠
傍聴者	1名

1 開会

○委員委嘱式・任命式

○教育長あいさつ

本日はご多用のところ、和光市史編さん委員会にご参集くださり、誠にありがとうございます。

和光市史につきましては、前回の作成は市制施行10周年の記念事業として昭和53年4月に市史編さん室を設置し、以来10年をかけて全6巻を完成させました。

それから40年が経過し、来年には市制施行50周年を迎えることになります。

和光市の様相も当時とは一変し、鉄道や高速道路の要衝となっております。

そこで前回作成した後の和光市の変遷を記録として残し、未来に繋げていくことが今の私たちに求められています。

また、その後の発掘調査などで、前回作成時には明らかになっていなかった部分が新事実として発見されたことなど、前回の修正とその後の新しい記録を作成することにより、市民の皆さまが和光市に愛着を持っていただく良い機会であることから、委員の皆さまにはご多用のところお手を煩わせ大変恐縮ではございますが編さんをお願いする次第です。

新しい市史は、前回の続編として数年かけて作成する予定で、皆様には長期間のかかわりになっていただきますので、よろしくお願いします。

なお、事業予算が確定していない中で、誠に恐縮ではございますが皆様の知見をいただき、市民にとってより良い市史が刊行できることを願っています。

簡単ではございますが、第1回和光市史編さん委員会の開催に当たり、ごあいさついたします。

○事務局より説明・報告

1. 市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。
2. 傍聴希望者が1名おり、入室いただく旨を報告。
3. 和光市史編さん委員会設置要綱第3条第2項の規定に基づき、委員長に宮瀧交二氏、副委員長に結城浩一郎教育部長を指名。
4. 以降の議事進行は委員長が行う。

○委員長あいさつ及び委員・事務局の自己紹介

2 議題

(1) 和光市史の編さんについて

○事務局

「和光市史の編さん」について、

- 1 市史編さんの目的
- 2 市史編さん対象期間及び刊行物の名称
- 3 市史編さんの基本方針
- 4 刊行物の体裁・頒布方法等
- 5 成果物

以上5点を中心に、資料に沿って説明。

○宮瀧委員長

今回の市史編さん事業の全容が書かれている部分である。委員会内での協議をもって改善すべき点があれば修正をしていきたい。

これまでの経緯を含め、予算の問題が大きく横たわっていると感じているが、現時点での今後の予算の見通しをお伺いしたい。

○事務局

和光市史編さん事業の予算の見通しについては、財源の関係で、今年度の当初予算に計上することが見送られたことから、1月に予定していた事業者選定のプロポーザルが実施できずに、現在に至っている。

和光市史編さん準備委員会でご審議いただいた委員の皆さんにはご期待に応えられず、

誠に残念で申し訳ない気持ちである。

現在は、予算を確保すべく実施計画に計上している段階で、「和光市史編さん業務」は令和2年度実施計画の重点的取組と位置付けられていることから、令和2年度当初予算では計上されるものと考えている。

そのため、契約に至るまでの準備行為となるが、9月議会で複数年にわたって事業を行うことの議決を得た後に、事業者の選定を行う。

今年度の予算はついていないが、来年度は当初から事業を進められるよう体制を整えていきたい。

○橋本委員

来年度以降に先延ばしにさせていただいた理由として一番大きいのは、今年度、午王山遺跡の国史跡を目指した意見具申書の提出に向けて注力することに、和光市として意思決定した点にある。

○宮瀧委員長

国史跡指定に向けた業務は、50年に一度あるかどうかの非常に重要で大変な事業である。事務も相当量あり、市史編さん事業と平行して進めることが困難であることを委員の皆さんにはご理解いただきたい。

なお、市史編さん事業の担当課は教育委員会の生涯学習課であるが、市を挙げて取り組む必要がある事業である。今ご説明いただいた内容で、予定どおり来年度から計画が進むよう期待している。

○鈴木委員

「5 成果物」の中で前回の市史の電子データ化について触れてあるが、非常に重要であると感じている。

この電子化の契約は、和光市史平成版の作成とは別の業者に委託する予定か。

○事務局

個別に委託するよりも安価で電子（PDF）化することができるため、一つの業者にまとめて委託する予定である。

○小柳委員

前回の市史の電子データは、和光市史平成版の刊行よりも前に、例えば来年度予算がついた段階で先に納品してもらうことはできないか。

○事務局

決定した事業者との打ち合わせの中で、納品のタイミング等について決定していく。

○宮瀧委員長

現在、学校教育の現場でタブレットやスクリーンを使って電子データを扱うことが多く、教育の主流になりつつある。

新旧の和光市史を電子化しておくことで、大いに活用されていくことが期待できる。

○佐々木委員

和光市史平成版の大きさや厚さはどのくらいを想定しているか。

○事務局

A4サイズの400ページで、厚さにすると約3cmほどになる予定である。

○佐々木委員

旧和光市史の電子（PDF）化の話があったが、CDに焼くことはできないか。

○事務局

HP上で誰でも閲覧できるように公開することを予定している。CDに焼いて頒布する件については、枚数や販売金額等を含め今後検討していきたい。

○宮瀧委員長

本と電子データの双方を生かしていきたい。

新和光市史の刊行はいつを予定しているか。

○事務局

来年度に予算計上を予定しており、今年度を含め4か年で事業を進めていきたいと考えている。このことから、令和5年3月までの刊行を予定している。

なお、今回の委嘱は、要綱上令和3年度末とさせていただいているが、任期を延長させていただくことも考えている。予めご了承いただければと思う。

(2) 和光市史平成版の掲載内容等について

○事務局

会議資料をもとに下記3点を説明。

- 1 和光市史平成版の概略
- 2 編さん方法
- 3 掲載事項

○宮瀧委員長

交通面等により急速に都市化が進む和光市において、地域の方々の記憶を記録に残していくことは、非常に重要なことである。予算化の必要がない部分であるため、できるところから進めていただきたい。

また市史は、学術的で精度の高い内容を、いかにわかりやすく市民の皆さんへお示しで

きるかにかかっている。

○鈴木委員

執筆について委託するということで、文章のレベルや業者にしっかりと伝えていかなければならない。

○宮瀧委員長

本事業は、市が主導者となって行うものである。しっかりとイニシアチブをとって事業を進めていく。

○伊藤委員

前回の市史全 6 巻を新事実を踏まえて 100 ページにまとめるとなっているが、それは可能なのか。新市史の 100 ページ分を読んで以前の部分をきちんと理解できるものとなりえるか。

○宮瀧委員長

まさにダイジェスト版といったところになりそうである。

市史は、その自治体の小・中学校で活用できるものかどうかの一つの尺度となってくる。より詳しいものは旧市史を見ていただくという動機づけにつながるような内容にしていきたいと考えている。

(3)和光市史平成版の章立て及び項目立てについて

○事務局

「和光市史平成版の章立て及び項目立てについて」について資料に沿って説明。

○鈴木委員

序章は、A 3 資料の大項目「和光市誕生から前回市史編さん期間（昭和 60 年）まで」までを対象としたほうがよいのでは。

○宮瀧委員長

和光市史平成版というタイトルから考えても、序章は「和光市誕生から前回市史編さん期間（昭和 60 年）まで」を対象としたほうがしっくりくる。次回までに再検討していただきたい。

また、中項目は「高度経済成長期」等日本全体の世相となっているが、和光市史の編さんという観点でいえば、「地下鉄や外環道の開通」など、和光市独自の、和光市の中で大きな転機となった出来事を中項目するというのも手である。

○鈴木委員

小項目がわかりづらくなっている。市役所の分野ごとに並べることはできないか。

○事務局

こちらに記載している小項目はあくまで出来事を列記したものである。

これらの出来事をもとに、事業者に工夫を凝らしてもらい和光市らしさが出るものを作っていくということである。

○宮瀧委員長

うまく整理してよりよいものを作っていきたい。

事務局が掲げた章立て項目立てについて、ご意見をうかがっていききたい。

○結城委員

平成版ということで俗っぽい内容になってしまう部分はあると思う。社会経済の流れと和光市の施策とをうまく取り入れながら、よりよい市史を作っていきたいと考えている。

刊行する市史が市民が気軽に手に取れる一方で、歴史書としての価値を損なうことなく多方面に活用いただけるようなものにできるよう進めていきたい。

○宮瀧委員長

市民の皆さんの暮らしを主とし、時代の中でその暮らしにどのような変化があったかなどを盛り込んだ文章を書いていきたい。おのずと市民が手に取りやすいものになっていくはずである。

○橋本委員

読み手の立場に立った作りになるとよい。

資料を見るとわかるように、平成の始まりの頃は箱物の建設が多く、近年になるとソフト事業が多くなっていく。こういった移り変わりもわかるとよいと思う。

○小柳委員

この30年で開発が進み、発展したきた部分がある。その一方で、自然環境や遺跡などが失われてきているというマイナスな面もしっかりと伝えていく必要性を感じている。

○伊藤委員

時代が進んで和光市でも急ピッチで開発が進んできたことによるメリットとデメリットの双方があると感じている。

自治会では人と人とのつながりを大切に様々な事業を進めている。先進的な取り組みとなっている地区社協をはじめ、住民が努力しているという点も取り込んでいければと考えている。市の取り組みの中で生じる負の部分を住民が補っていることも大事な視点である。

○富岡委員

「和光市史」ということで、他の委員も言われている負の部分にも触れる必要があると

感じる。

小項目を見ると自分で携わってきたものもある。今一度振り返って、今後委員会で発信していきたい。

○佐々木委員

平成30年間の発展の中で、反省していかなければならない点もあると思う。

また、国際化が進んでいることも特徴の一つであるのではないか。私の住んでいる付近でも外国人が増えていると実感することがある。

○牧田委員

変化とその功罪について様々なご意見があったが、変化する中で、一貫して変わらない“和光魂”のようなものにも着目したい。

また、高齢化の時代の中で、和光市は他市に比べ高齢化が比較的緩やかであり、若年層も多い人口動態にあるという和光市の特徴についても触れていければと思う。

○宮瀧委員長

事務局には今、委員の皆さんからいただいたご意見を参考にして、業務を進めていってほしい。

例えば国際化に着目すると、古代新羅郡が建国されたこの地域の当時の人々は、渡来人を受け入れた。渡来人とうまく融合を図った先進的な地域であったと認識している。「和光市の国際化のルーツは1300年前にあり」のようなストーリーが描ければ面白いと思う。

その他、ご質問はあるか。

○委員一同

特になし

○宮瀧委員長

議題1から3まで続けて進めてきたが、委員の皆さんの貴重なご意見を生かして修正を加える部分は加えた上で、事務局案に対し承認するということでよろしいか。

○委員一同

異議なし

3 その他

次回の会議は令和元年11月15日（金）9：00～、受託候補者の選定委員会として開催。

その間、新たな決定事項、修正点が生じた際は、郵送等により随時委員各位へ情報を伝達する。

4 閉 会